

モーリシャス豆知識・小話 第10号

2018年2月
在モーリシャス日本国大使館

(1) 春節

ご存じ、中国の旧正月を祝うときですね。この時期になると街中に赤い提灯があちこちに飾られ、街中でところ構わず爆竹が鳴り響きます。欧州などでやったらテロと間違われ、警察や軍が飛んできそうですね。2018年は2月16日が春節のお休みになりました。獅子舞などが待ちを練り歩き、雰囲気盛り上げていました。

モーリシャスではヒンドゥーのお祭りや中国の春節を毎年かわりばんこに国民の休日に行っているようで、アフリカ広しといえど、春節を公休日に採り入れている国家は今のところモーリシャスだけだと聞いたことがあります。こういうところにも、インド系が多くを占めながらも他民族・他宗教の共存、融和を大切にしている当国の知恵が垣間見える気がしますね。中国系モーリシャス人からは月餅などお祝いのお裾分けをもらい、当館もおいしくいただきました。みなさん、新年おめでとうございます！



春節イベントとお菓子

(2) モーリシャスの可能性 ～日モーリシャス経済関係強化のために～

今般、南アフリカの日本商工会議所のメンバー企業の方々がモーリシャスを訪問されました。実は昨年（2017年）2回、日本から質の高いインフラプロジェクト輸出促進のための官民合同ミッションが国土交通省の方々と来られたのですが、今回はインフラ案件に限らず、広く当国での貿易や投資を探るための訪

問団でした。商社や製造業、銀行等日本を代表する企業の南ア駐在員の方々が、モーリシャス政府関係者に企業PRされるのを見て大変頼もしく、また今後に大いに期待が持てる訪問でした。皆様、本当にお疲れ様でした！

モーリシャスは他のアフリカ諸国と違い、1人当たりの年間国民所得が9,000米ドルを突破している中高所得国です。もはや政府開発援助（ODA）頼みの経済開発をやる段階は過ぎており、かといって先進国並みに完全民間ベースでやっていくのもまだ難しいでしょう。日本がこの国のインフラ整備を含む様々な開発プロジェクトへの資金供与を初め、技術移転、人材開発等に貢献しながら、いかに貿易投資を図っていくべきか、我々大使館も日本企業の皆さんとともに知恵を絞り、先方政府に働きかけていく必要があると思っています。

しかしながら、狭い国土、小さい人口と市場、少ない天然資源（海はあるけど）、主要国際市場からの地理的な遠さを考えると、ビジネスをやる上で決してうまみのあるところ、ポテンシャルのある国とは思えませんね。そうしたハンディを承知の上で、モーリシャスの人たちは我々に対し、ここはアジアとアフリカをつなぐ結節点であり、日本企業にとってはアフリカ進出のゲートウェイになり得るところ、是非我々をパートナーにして国内外で一緒に活動していこう、と熱心に呼びかけています。

既にアフリカ進出を果たしている企業も初めての企業も日本企業の方々には、ODAそのものとは若干離れた視点から、またモーリシャスだけを見るのではなく、この地での事業をモデルケースにあるいはアフリカ諸国へのショーウィンドーとして、その先に広がる広大且つ可能性に富んだアフリカへの持続的な進出を見据えた第一歩を、是非モーリシャスから踏み出してほしいと切に思います。

そこにはきっと、ODA絡みではなくとも日本企業が進出していける将来のアフリカビジネスのヒントや新たな方策がきっと見つかるはず、と期待しています。



商工会議所ミッションによる外務大臣表敬